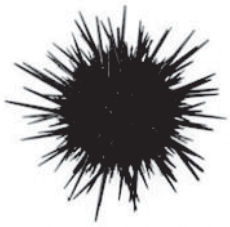
キタムラサキウニ *Mesocentrotus nudus*



地方名：のな、くろかぜ

生態

①寿命：15 年程度
②成熟：殻径 4 cm以上
③産卵期：7 月～10 月（水温 15～20℃以上）
④分布：相模湾、若狭湾以北の本州と北海道沿岸
⑤生態：冷水性ウニであり、へい死の危険性が高まる水温帯は 26℃以上にあるとされる。受精後 1～2 か月間の浮遊生活後に着底し、潮下帯から水深数十メートルにある岩礁や転石帯に広く分布する。コンブ、ワカメ、ホンダワラ類やそれらの流れ藻を摂餌する。高水温期を除き、1 日に体重の 5%～10%を摂餌し、磯焼けの発生・持続要因となる。

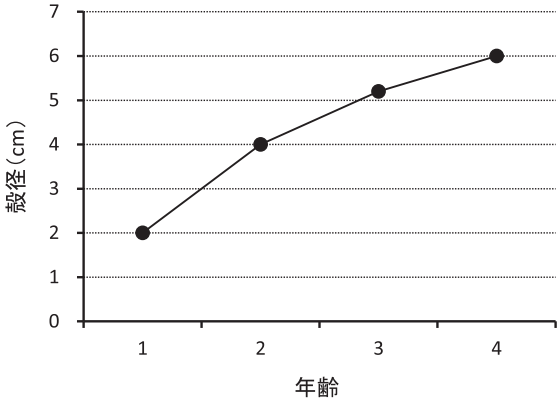


図　青森県におけるキタムラサキウニの成長

主な漁業

県内の各沿岸海域でほこやたもなどの漁具及び潜水で採捕されるほか、下北半島沿岸ではウニ篭、津軽半島沿岸ではけた曳き網で漁獲される。卵巣、精巣が食用に供されるため、成熟までの季節にあたる春から夏が漁期の中心になる。磯焼け域や深場など海藻が少ない海域では身入りが進まず、商品価値を欠くため漁獲されないことがある。

漁獲の動向と水準

漁獲量は 1979 年に 1,894 トンを記録した後、2011 年の 515 トンまで減少傾向で推移した。その後 2015 年まで増加傾向にあったが、近年は再び減少傾向となり、2024 年の漁獲量は 312 トンであった。

2024 年の漁獲水準は、漁獲量の最高値と最低値との間を 3 等分し、上から高位、中位、低位とすると、低位であった。

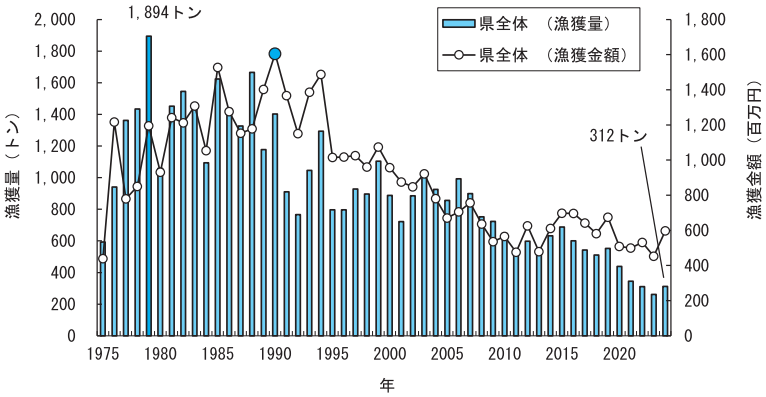


図　青森県におけるウニ類の漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

☆身入りが少ないいわゆる「空ウニ」を雑海藻場に移殖することにより、身入りを高めることができる。同時に、マコンブに対するウニの食害を減らすことができる。